

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者と職員は、地域密着型サービスの理念を共有し、理念の実践に取り組んでいる。	法人の理念「親切・誠実・清潔・協調・公正・明朗・創意」と事業所の理念「地域密着型サービスの提供」を職員は充分理解している。会議の折には理念がケアに反映されているか話し合い、日々理念の実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方とはほぼ毎日顔を合わせ、挨拶を交わしたり、日常的に交流している。また「子どもを守る安心の家」の看板設置により学校帰りの小学生が水を求めて立ち寄る事があり交流している。	町会に加入し地域の行事にも招待され、納涼祭などのホームの行事には近隣住民をお誘いし一緒に楽しんでいる。保育園の誕生会には毎月招待され誕生月の入居者が祝福を受けるなど、ホームは地域の一員として日常的に人々とふれあっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	車椅子講習会などに参加し地域の方々に支援方法などを行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回会議を開催し、事業所の活動や防災訓練、外部評価等の実施状況の報告をしている。地域の皆さんは高齢者福祉に関心を持っておられる。	会議には家族、家主、町会長、民生委員、地域包括支援センター職員、ホーム関係者等が定期的集まっている。ホームからの報告の後、参加者との質疑応答や意見・要望をいただくなど双方向的な会議となっている。いただいた貴重な意見や要望はサービス向上に活かされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センターの職員が運営推進会議のメンバー(民生委員、町会長等)と密接な関係にあり、研修会を開いたり、施設見学に行かれたりしている。また松本市より派遣相談員2名が月一回こられ利用者さんと話す機会をもうけている。	市担当者とは機会があるたびにホームの取り組みや入居者の様子を伝えるなど積極的に連携を図っている。ホームからの相談ごとに対して担当者が気軽に乗っていただける良好な関係が築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修により「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	施錠を含め全ての拘束的行為は行われていない。入居者が気持ちよく自由に暮せる、そんな当たり前の生活が送れるように職員は拘束をしない、頼らないケアを実践している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修により、高齢者虐待禁止関連法について理解を深め、事業所内での虐待防止に努めている。		

## つりがね草

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修により全体会議で資料を配布し、必要性を話し合う機会を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には重要事項の説明を行い、十分に納得して頂けるようにしている。また、介護報酬の改定や利用料の改正時には説明を行い、理解を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に1回家族会を開催し、ご家族と第三者委員との意見交換の機会を設け、それらの意見を反映しているが、参加者は全家族ではないため、全ての意見や要望を把握できていない。	家族会や面会時、運営推進会議など、ホームに対して意見・要望を表出できる機会を設けている。家族が気軽に何でも言ってもらえるように関係作りや雰囲気作りに努めている。いただいた貴重な意見、要望等は検討し運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回全体会議を開催し、全職員参加して意見交換を行っている。また随時意見要望などが出せるような雰囲気作りを心掛けている。また代表者が年末に職員の自己評価と意見の提出物に目を通してしている。	管理者は常に職員との会話を大切にしている。会議やミーティングなどにおいて職員は自由に自分の意見や考えを発言し、職員間で活発な意見交換が行われている。意見や提案等は運営に反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者も2か月に1回の運営推進会議に参加して、事業所の状態、職員の悩みを聞き、改善に向けている。職員の資格取得に向けた支援を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人の事業計画として職員のスキルアップ（研修の充実、資格取得への援助）をあげて例年に比べ研修参加機会が増えている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の別のグループホームとは納涼祭等での交流会を行い親睦を深めたり、月に1回グループホーム会議を開き、情報交換を行い、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時の事前面接を御家庭に出向き、ニーズの把握をしている、本人にはグループホームに入所の意向があるか、概要説明等で把握するようにしている。本人の心情を受け止め、不安の軽減に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面接でニーズの把握をし、家族の意向と家庭で困っていること等本音を聴き、信頼関係を築くための努力をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族の相談に応じ、必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩として職員も利用者から、経験や知恵を教えて頂き、日々の生活に活用している。利用者からの話を親身になって聞き信頼関係を築けるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会の際には生活の様子等を知らせ、訪問しやすい環境作りを心がけ、訪問時はゆっくりしていただけるようにし、家族との関係が疎遠にならないように心がけている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者のなかには、地域の方との馴染みができ良い関係を継続している。外部からの来訪者もオープンにしている。手紙や電話利用の支援等で継続的な関係維持を行っている。	入居者の馴染みの人や場所、生活歴等の情報を把握しており、入居後も一人ひとりの大切な関係が継続できるよう支援している。お盆や年末年始に自宅に帰る入居者や馴染みの美容師からお気に入りの髪型にしてもらい満足気の様子を見せて喜ぶ方もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は、利用者同士の関係性について把握し、その日その日の個々の状態変化にも気を配るよう配慮している。		

つりがね草

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	法人内の特養「小倉メー」に入所された方は来所時に面会の機会を設け職員、利用者同士の触れ合いをしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎月担当者会議を設け検討している。その他その都度必要時は連絡帳に記入し、朝のミーティングを活用して入居者全員が、その人らしく生活出来る視点を職員が持ち、入居者本位に対応できるよう努力をしている。	入居者の日々の生活の中での言葉やしぐさなどから一人ひとりの思いや希望を把握し、声をかけたり誘導している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族に協力と理解を頂き、ご本人のバックグラウンドを把握、生活歴やライフスタイルの情報を得ている。毎日の生活や言動からその人の価値観や個性を捉え、尊重した対応を心がけている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりの過ごし方を把握し、職員同士情報を共有し統一したケアを行うよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月担当者会議を設け、サービスの実施と評価の参考に個別に検討している。ご本人やご家族の要望も取り入れた計画を作成し、その都度ご家族やご本人の承認を得ている。	本人や家族の希望を基に、その人らしくより良い暮らしを続けるための介護計画が作成されている。定期的な見直しが行われており、毎日の実施状況が確認され、毎月評価も行なっている。現状に即さない場合は直ちに見直され、新たなものに作り変えられるようになっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日誌には、個人個人の1日の生活状況が把握できるような記録をしている。介護記録は、日中、夜間の状態を個別に記録。出勤職員は必ず目を通し、個々の状態を把握し、情報の共有と実践に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人の変化に留意し、今後の支援をご家族と相談しながら行なっている。緊急時やご家族の対応困難な時は、柔軟な支援をするように努めている。		

つりがね草

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居者の皆さんが安心して生活ができるように、町会長、民生委員、消防署、警察等の協力を得ている。地域の行事には積極的に参加。保育園との交流も継続的に実施している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院が地域にあり、毎月2回の往診でなじみとなり、良い関係が築かれつつある。必要時は家族との連携を図り、家族の希望するかかりつけ医にして頂き適切な医療を受けられる様支援している。	かかりつけ医や専門医への受診・通院は家族にお願いしているが緊急時は職員が付き添っている。事業所での心身の状態等の情報は家族に口頭で伝えている。医療機関には書面で情報提供することもある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	隣接している関連施設のデイサービス看護職員に必要時は相談し、適切な受診や看護を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が安心して過ごして頂けるよう努め、協力機関との情報交換を速やかにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化により状態に変化があるときは、その都度ご家族に報告、相談をしながら対応している。家族の意向を傾聴し特養の申し込みについてはケアマネジャーの意見書を添えて家族が直接申し込みをされている。	入居契約時に重度化した場合や終末期についてのホームの方針を本人・家族に説明している。状態に変化が生じた場合は家族等と話し合い、協力施設へ申し込をするなど、本人・家族の意向に沿った支援が行われている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急救命法の講習は職員全員が受講している。緊急時マニュアルも整備されている。今年度はAED導入に際しての訓練も行った。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを作成し、消防署、近隣住民の協力を得て、避難訓練・消火訓練を行っている。通報訓練や夜間呼び出し訓練も随時実施。	地域の防災訓練に入居者と共に参加している。例年消防署や地域の協力を得ながら昼夜想定避難訓練等が行われている。今年の9月にスプリンクラーが設置された。夜勤者は巡視時に火元点検も同時に行っている。同業者の痛ましい災害や火事の報道を聞くたびに話題として取り上げ、注意を喚起している。	居室が全室2階にあるので非常階段を使つての避難訓練や夜勤帯における通報・避難誘導などについて具体的に話し合い、入居者の安全確保のための万全な策を講じられることを望みます。

## つりがね草

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの尊厳の保持とプライバシーの保護に配慮した対応を心がけ、言葉の調子や目線、言動に注意を払いながら、さりげない対応を行っている。個人情報保護法の理解のもとで、本人のプライバシーに関しての秘守義務を徹底している。	入居者が気持ちよく生活できるよう一人ひとりの人格や誇りを尊びながら日々支援している。研修生やボランティア等に対しても「心得」を説明し文書でも渡している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者の状態に合わせた方法で、その人の思いや希望を引き出す支援をしている。日常生活のなかで、一人一人の持てる力に合わせて自己決定の場面を多く取り入れる努力をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者のペースを大切に、その日の体調・どのように過ごしたいのか、希望に添って支援できるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日の整容や身だしなみのため、鏡やブラシを自室に用意している。日常着は基本的にご本人が選択している。理容は毎月行われている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事内容は利用者の好み、意見を取り入れ考えている。できる方は限られてしまっているが、その日の様子に合わせて、台所での仕事ができるよう支援しているが、現在は調理をしたり、片づけをしたりは限られた利用者になってしまっているが、何か少しでも利用者が力を活かせるような様々な事に注意を向けるよう努めている。	旬の食材を使った季節料理や昔から親しまれている郷土料理、好きな食べ物などを聞きながら、食事の準備や片付けが出来なくなっても食事が楽しみであったり生き甲斐や喜びを感じてもらえるように努めている。また職員と一緒に食事をしながら美味しいものを美味しく食べられるような雰囲気作りにも努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	粥食希望ほか栄養バランス等も考慮し、本人の好みで食べる量が確保される様支援している。水分摂取には十分な注意を払い、水分補給をいろいろな形で提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの重要性を職員が理解している。朝、夕食後のうがいや義歯洗浄を支援している。就寝時は各自保管し、週2回の薬液による洗浄を実施している。残歯は職員が歯みがきを介助し口腔内の清潔を保つようにしている。		

## つりがね草

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	現在はオムツ利用者はゼロである。トイレでの排泄を支援しリハパン使用者は陰部、臀部の清拭をご本人あるいは職員が介助して清潔保持に努めている。	一人ひとりの排泄パターンや生活リズムに沿いながらトイレでの排泄が出来るよう支援している。夜間は入居者の様子を見ながら睡眠を妨げない範囲で支援するよう配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量の把握、食事内容の工夫を行っている。時々薬(下剤)などを使用する時もあるが、普段の排泄状況を見ながら使用している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的な入浴日は決めているが、本人の体調や希望で変更している。プライバシーを大切にし個浴を行い本人のペースで入っていただいている。	気持ちよく入浴してもらうために入居者の希望を聞きながら支援している。夏場はシャワー浴もあり頻繁に身体を流している。入浴剤は毎日入れているが季節には柚子湯、菖蒲湯などもあり喜ばれている。食事中「今日は私の日？」と職員に聞き笑顔を見せた様子から入浴を心まちにしていることが伝わってきた。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	起床・就寝時間はそれぞれで行われている。日中も自由に休息されている。日中の活動量の確保や散歩で生活リズムを整え、夜間の安眠につなげている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬内容や目的、副作用、注意事項のファイルは個人毎に整理されている。勉強会にも取り上げ、服薬内容や作用のリストを職員に配布している。薬の変更時は担当者から連絡帳等で連携をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者により差はあるが、日常生活の中に楽しみごとや生活習慣を取り入れながら過ごせるよう支援している。出来ることの見極めを行い、本人にとって過不足のない支援を心がけている。犬を飼うことで利用者がふれあい、癒されている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者の体力に合わせた対応で心身の活性化や生活リズムを整えるため、日常的に散歩を実施している。また定期的な外出、外食が行われている。	天気の良い日には外に出て日光浴をしたり、ホームの近辺を散歩している。また四季折々、花見や紅葉狩りなど近隣の公園や名所へ出かけている。また「ふるさと訪問」では入居者、職員2名ずつで入居者の生まれ育った場所を見に交代で出かけている。	

## つりがね草

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の意向やご家族の希望で、小遣いを所持されている方もおられるが、基本的にはお金は事務所で預かっている。買い物希望があれば、購入している。家族へ金銭出納について毎月報告している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の申し出を受け、手紙の投函や電話の取り次ぎを支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるよう工夫をしている	玄関先は、プランターに花を植え、玄関や談話室には季節の花を飾り、安らぎと居心地のよい空間になるようにしている。整理整頓に心がけ、生活感も出すよう配慮している。	居間や台所、食堂は一体となっており広々としている。ガラス戸から差し込む晩秋の陽ざしは柔らかく、暖かい。道路を挟んだ向かいの保育園の園児達の華やかな声がよく聞こえてくる。40mの廊下の窓からは雪をかぶった北アルプスが望め、窓ごとに洒落たカーテンが付いており、ホテルの雰囲気を感じさせる。その廊下が天気の悪い日には入居者の運動の場となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関にはソファが置いてあり入居者同士や一人で過ごすことができる。ソファ、テーブル、椅子等さまざまなスペースを提供し、好きなように好きなところで過ごせるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのタンス、茶ダンス、机や椅子、仏壇等を持ち込まれている方もいる。部屋には家族の写真、行事の写真等を飾ってある。入り口にはプライバシー保護のため、のれんを設置し安心出来る配慮をしている。	以前寮であった部屋が使われていることもあり、押入れと2つのロッカーなど収納場所が充分ある和室にはベッドが置かれている。居室には本人が大切にしていたものや馴染みのものが持ち込まれており、その人らしく落ち着いて生活できるよう工夫されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	本人の持てる力や能力の把握に努めている。居室のドアには小さく名前が張ってある。トイレはのれんを掛けたり、分かりやすく表示をしている。		